



さいたま市立与野南小学校

【児童数】計368名

電話 831-0157



わくわくが育てた、子どもたちの力

校長 土屋 智樹

気付けば、多くの人々に感動を与えたミラノ・コルティナ冬季オリンピックが、あっという間に終わりました。私も日本人選手の活躍に感動したのはもちろんのこと、様々な競技の面白さにも触れることができました。その中で、スキージャンプ男子個人ノーマルヒルで銅メダルを獲得した二階堂蓮選手が、試合後に語った「緊張よりも、どんなジャンプができるんだろうというワクワクが勝った」という言葉が心に残りました。

世界の大舞台でこの言葉を口にできるのは、ジャンプそのものを心から楽しみ、挑戦そのものを価値あるものとして積み重ねてきた証だと思います。結果にとらわれるのではなく、その瞬間に自分がどんな飛び方ができるのかに心を向けられる—その在り方は、私たちに夢中で挑むことの素晴らしさを改めて教えてくれました。

この言葉に触れた時、私はすぐに今年の子どもたちの姿を思い出しました。4月の学校だよりで掲げた「わくわくする学びを届ける」という願い。日々の授業や活動の中で、子どもたちはまさに“わくわく”を胸に学びへと踏み出し、時に悩みながらも挑戦し続けてきました。

「自主性」「やり抜く力」「協働力」「思いやり」—本校が育てたいと願ってきた資質・能力は、テストの点では測れない“目に見えない力”です。しかし、子どもたちは、その力を確かに自分の中で育て、価値づけながら歩んできたように感じています。

3学期のめあての中に、6年生が下級生に受け継いでほしいこととして、「誰かのために行動できる人になってほしい」「笑顔あふれる学校になってほしい」という言葉が書かれていました。これらの願いは、学校で過ごした6年間、仲間とのつながりの中で培われた実感そのものだったのでしょうか。また、「小さい学校だけれど、友達同士のつながりが深い学校」と書いた子もいました。本校が掲げる「つながりを大切にする学校」の姿を、子どもたち自身が実感として語ってくれたのだと思います。

さらに、2年生や4年生が授業で書いた作文には、「続けることの大切さ」「最後まであきらめないこと」をテーマにしたものが多く見られました。積み重ねの中で育った“やり抜く力”。これは、まさに二階堂選手が語った「ワクワクが緊張を上回る」境地に通じるものです。挑戦を楽しめるようになるまでの道のりには、毎日の小さな努力があったに違いありません。

この一年、子どもたちは学ぶ喜びを感じ、仲間とつながりながら高め合い、そして挑戦を前向きにとらえられる自信を育んできました。目に見えないけれど、ゆっくりと確かに積み上げてきた、その力こそが未来へ羽ばたく大きな翼となるはずです。今年度も、子どもたちの内に芽生えた無数の“わくわく”が、教室を温かく照らし続けました。年度の締めくくりにあたり、その成長をともに喜びながら、これからも子どもたちが自分らしい学びや挑戦を続けていけるよう、私たちはそっとその背中を押していきたいと思えます。

一年間、温かく見守り、支えてくださった保護者の皆様、そして日々の教育活動に深い御理解と御協力を寄せてくださった地域の皆様に、心より感謝申し上げます。来年度も、本校の教育への御支援をどうぞよろしく願いいたします。